

の文と實に以て天地雲泥せり。何れに付べきや。就中其道理を思に、諸佛衆經の怨敵、聖僧衆人の讎敵也。經文の如くならば、争か無間を免るべきや。爰に愚人作色云、汝以賤身恣吐莠言。悟而言歎。迷而言歎。理非難辨。忝も善導和尚は彌陀善逝の應化、或は勢至菩薩の化身と云へり。法然上人も亦然也。善導の後身といへり。上古の先達たる上、行徳秀發し、解了底を極めたり。何ぞ惡道に墮給と云や。聖人云、汝が言然也。予も仰て信を取ること如此。但佛法は強に人の貴賤には依べからず。只經文を先とすべし。身の賤をもて其法を輕ずる事なかれ。有人樂生惡死。有人樂死惡生の十二字を唱へし毗摩大國の狐は帝釋の師と崇められ、諸行無常等の十六字を談せし鬼神は雪山童子に貴まる。是必ず狐と鬼神との貴きに非ず。只法を重ずる故也。されば我等が慈父教主釋尊、雙林最後の御遺言涅槃經の第六には、依法不依人として、普賢・文殊等の等覺已還の大薩埵法門を説給ふとも、經文を手に把らずは用ゐざれとなり。天台大師云、與修多羅合者錄而用之。無文無義不可信受文。釋の意は經文に明ならんを用よ。文證無らんをば捨よと也。傳教大師云、依憑佛說莫信口傳文。前の釋と同意也。龍樹菩薩云、依修多羅白論不依修多羅黑論文。意は經の中にも

法華已前の權教をすて、此經につけよと也。經文にも論文にも、法華に對して諸餘の經典を捨よと云事分明也。然るに開元の錄に所舉五千七千の經卷に、法華經を捨よ乃至抛よと嫌ふことも、又攝雜行捨之と云經文も全く無し。されば慥の經文を勘へ出して、善導・法然の無間の苦を救はるべし。今世の念佛の行者・俗男・俗女、經文に違するのみならず、又師の教にも背けり。五種雜行とて、念佛申さん人のすつべき日記、善導の釋有之。其雜行者選擇云、第一讀誦雜行者、除上觀經等往生淨土經已外於大小乘顯密諸經受持讀誦、悉名讀誦雜行。乃至第三禮拜雜行者、除上禮拜彌陀已外於一切諸餘佛・菩薩等及諸世天禮拜恭敬、悉名禮拜雜行。第四稱名雜行者、除上稱彌陀名號已外、稱自餘一切佛・菩薩等及諸世天等名號、悉名稱名雜行。第五讚歎供養雜行者、除上彌陀佛已外於一切諸餘佛・菩薩等及諸世天等讚歎供養、悉名讚歎供養雜行文。此釋の意は第一の讀誦雜行者、念佛申さん道俗男女、讀べき經あり、讀まじき經ありと定たり。讀まじき經は法華經・仁王經・藥師經・大集經・般若心經・轉女成佛經・北斗壽命經、ことさらうち任せて諸人讀るゝ八卷の中の觀音經、此等の諸經を一旬一偈も讀ならば、たとひ念佛を志す行者なりとも、雜行に被攝不可往生云云。予